

令和7年度 第二回札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会 議事録

1 日 時

令和7年9月22日（月） 13時30分から15時30分まで

2 出席者

(1) 委員

- ・ 本田 修（元国際交流基金文化事業部長）
- ・ 右谷 誠（札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部 センター事業部長）
- ・ 山本 麻友美（京都芸術センター副館長）
- ・ 吉本 光宏（合同会社文化コモンズ研究所代表、一般財団法人長野県文化振興事業団理事長）
- ・ 若林 朋子（プロジェクト・コーディネーター、立教大学大学院教員）

(2) 事務局

- ・ 米森 正貴（市民文化局文化部長）
- ・ 大沼 孝彰（市民文化局文化部文化振興課調整担当係長）
- ・ 小川 桜（市民文化局文化部文化振興課振興係）

3 議 題

- (1) 令和7年度採択事業の状況説明
- (2) 札幌市におけるアーツカウンシル機能のあり方について

4 議 事

(1) 開会

- ・ 事務局（大沼調整担当係長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。

(2) 令和7年度採択事業の状況説明

- ・ 事務局より、本年度採択事業の現況について説明した。

(3) 札幌市におけるアーツカウンシル機能のあり方について

- ・ 将来的なアーツカウンシル機能のスキーム及び創造活動支援事業の今後の進め方について、事務局より構想案を説明し、それに基づき意見交換を行った。

【主な意見】

- 中間支援団体による支援は、彼らが培ったネットワークを活用しているものであるから、団体自身が目指すあり方を尊重できる仕組みになるとよい。
- 実証実験の期間中は、事業手法を変更せずに検証材料を集めるのが良いと思う。
- この検証委員会は「札幌市におけるアーツカウンシル機能の検討」を行うことが役割。まずは札幌市の文化施策の基となる理念を確認・共有し、その実現のために必要な機能や体制について丁寧に検討を進めていきたい。
- SCARTS との役割分担についても併せて検討するのであれば、SCARTS で実施している助成金についての検証も必要になる。
- 20 年後、30 年後を見越して、札幌市としてどういう活動を支援していきたいかということを委員会で共有できると、方法論も考えやすいのではないかな。
- 創造活動支援事業は、細かな手法自体に修正は必要かもしれないが、他地域と比較しても類のない価値のある取組であると思う。
- 予算が増えれば、もっと支援を受けられる人が増え、多角的・多層的な支援が実現出来ると思う。
- 現行の手法は再支援制度と呼ばれ、直接支援よりもきめ細かな支援が可能であることが特徴。

【閉会】